

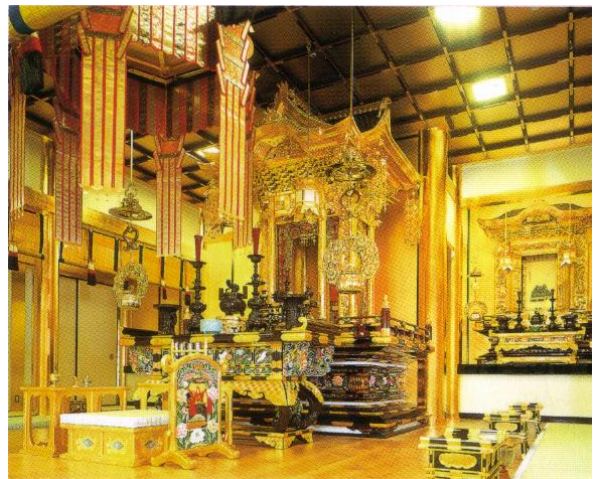
京仏壇・京仏具

【産地組合】京都府仏具協同組合

（産地紹介）

仏壇は厨子（ずし）から変化したものですが、もっぱら武士階級のものとして用いられていました。これが一般に広まったのは、江戸時代初期からで、徳川幕府が行った宗門改（しゅうもんあらため）によって、各家庭での仏壇を必要とする人々が増えたため、一般家庭用仏壇の生産が本格化したと考えられます。また、京都における仏具は、平安仏教を特色付けた最澄、空海の時代の8世紀頃に、その製作が始められたと考えられます。11世紀初頭には仏師が七条に「仏所」を設け、仏具作りの職人を集めました。これが本格的な仏具の歴史の始まりと言えます。

京都には各宗派のもととなる総本山が100以上あり、それに加えて3,000余りの寺々や数多くの国宝・文化財があります。京仏壇は、各宗派の総本山の本堂の様子を忠実に再現小型化した精緻な工芸品として「京もの」と呼ばれ、格調の高さと精神性を誇っています。また、京都の仏具作りは、その多彩で高度な分業の技術を集めた技と心の結晶とも言えるものです。各宗派にはそれぞれのデザインや特別な仕様があります。



（トピック）

- ・ 証紙の中で、最高の逸品として伝統証紙に追加で「京都」の文字を貼付する「サミット」と呼ばれる新しい検査基準である証紙制度を創設しております。